

地域にプラー



ちいぷら通信

地域連携活動報告書

VOL.5

2025年度地域連携プロジェクト特集号



十文字学園女子大学
JUMONJI UNIVERSITY

はじめに



地域連携プロジェクトとは



●本学の社会連携推進センターでは、自治体、企業、NPO等との連携や大学間連携を通して、地域の活性化および課題解決のため、学生や教職員による地域活動、ボランティア活動を支援しています。



同センタープロジェクト研究部門である社会連携共同研究所では、本学の教育研究の一層の推進を図ることを目的として、毎年度「地域連携プロジェクト」を全学的に公募し、採択したプロジェクトの助成を行っています。

NEW

社会連携活動の拠点「ここプラス」がオープン

「ここからはじまるプラスな毎日」—そんな願いからこのスペースが誕生しました。「プラス」には、十文字の「十（じゅう）」、成長やプラス思考などの「+（プラス）」、人が行き交い、集う交差点をイメージする「+（クロス）」などの意味が込められています。

地域や社会、そして、そこに集まる人たちとつながりながら、「+（プラス）」のパワーを発信する拠点です。



お問い合わせ

社会連携推進課

ext@jumonji-u.ac.jp





2025年度 社会連携共同研究所

地域連携プロジェクト採択一覧

1. 地域連携プロジェクト

	区分	プロジェクト名	代表者	関係するSDGs	ページ
1	継続	大学マスコットキャラクターの活用とその展開 - 学生にプラスの力を、地域にプラスのつながりを -	文芸文化学科 星野祐子		1
2	継続	ふるさとの緑と野火止用水を育むプロジェクト (HUGネット)	児童教育学科 星野敦子		3
3	継続	遊びを通した子ども・地域の居場所支援 - 「しあわせ居場所ネットワーク」の活動と展開 -	人間福祉学科 矢野景子		5
4	継続	健康増進に向けたプラスごはんプロジェクトからの 地域への情報発信・交信・共振	健康栄養学科 木村靖子		7
5	継続	地域との連携による多様性交流サロン 「みんなのひろば☆きらり」の実践	人間福祉学科 人見優子		9
6	継続	朝霞市公立保育園×十文字学園女子大学 遊んで学ぶ・探求して遊ぶ「おさんぽ プラス」	幼児教育学科 渡邊孝枝		11
7	継続	地域児童のヘルスリテラシー向上のための 食育支援	健康栄養学科 徳野裕子		13
8	継続	新座産クラフトビール「十文字フルーツビール」の 開発とホップ粕残渣の有効活用法の検討	食品開発学科 渡辺章夫		15
9	新規	地域をいづる学生のチカラ	文芸文化学科 新嶋良恵		17
10	新規	外国ルーツの子どもたちの学びと成長を支える 地域連携プロジェクト	文芸文化学科 稲田朋晃		19

2. 社会連携共同研究所管轄のプロジェクト研究所

1	継続	生活環境研究所	児童教育学科 星野敦子		21
---	----	---------	----------------	--	----

※ 継続・・・前年度より継続で採択したプロジェクト
新規・・・2025年度新規で採択したプロジェクト

2025年度スケジュール



学科・代表者名

文芸文化学科・星野祐子

プロジェクト名

大学マスコットキャラクターの活用とその展開 —学生にプラスの力を、 地域にプラスのつながりを—



プロジェクト概要・テーマ

地域イベントへの参加と ワークショップの企画

「プラスちゃん」といっしょに地域イベントやお祭りに参加し、イベントを盛り上げます。

あわせて、公民館や小学校でクラフトワークショップを企画・運営し、オリジナルの作品作りをサポートします。



Topics

1

ワークショップが人気



新座市制施行55周年記念事業「にいざの魅ドコロ！まるごとマルシェ」に参加。ホイップデコと重曹アートのワークショップを実施。

Topics

2

ダンスで交流



ねりま体操フェスティバルに参加。光が丘体育館で「プラスちゃんダンス」を元気に披露。キッズからシニアまでダンスで交流。

Topics

3

笑顔でグリーティング



2025年度も様々な地域イベントに参加。プラスちゃんのグリーティングはいつも大人気。地域の方々とのふれあいを楽しめます。



プラスちゃん紹介HP : <https://www.jumonji-u.ac.jp/outline/character/>
プラスちゃんくらぶX : @_pluschan

地域イベントへの参加

グリーティングで地域の方と交流



ステージで元気にパフォーマンス！グリーティングでは多くの方に笑顔をお届けます。

【主な実績】

SAITAMA子育て応援フェスタ
@さいたまスーパーアリーナ／
志木市民まつり@いろは親水公園
／あさか産業フェア@朝霞市産業
文化センター／新座市介護保険課
主催イベント など



ワークショップの実施

作る楽しさを地域の方に



2025年度も 楽しく活動できました！



重曹アートやホイップデコのワーク
ショップはいつも大人気。
幅広い年代の方に体験をしていただ
きました。

【主な実績】

新座市制施行55周年記念イベント子ども
向けワークショップ@新座市役所／あさ
か産業フェア@朝霞市産業文化センター
／東北コミセン祭り@新座市東北コミュ
ニティセンター／夏フェスin中央公民館
@和光市中央公民館／野火止ココフレ
ンド@野火止小学校／大和田ココフレ
ンド@新座市立大和田小学校 など

学園祭ステージ

キャプテンカロテンといっしょ



朝霞市の芸能事務所「トライメート」と
連携。「キャプテンカロテンヒーロー
ショー×脱出ゲーム」イベントの運営を
手伝ったり、学園祭でステージイベン
トを実施したりしました。



ピンポン玉発射！

作った発射台で小学生と遊びます

割りばしを使って発射台を作成。ピンポ
ン玉発射ゲームで小学生と対決しました。

【主な実績】

ぱわーあつぷくらぶ@新座市立栗原小学校／
チャレンジスクール@さいたま市立仲町小
学校 など

【2025年度 学内構成員】

星野祐子(文芸文化学科)、塚田昭一(児童教育学科)、名達英詔(幼児教育学科)
飯田路佳(健康栄養学科)、渡邊孝枝(幼児教育学科)

1年間の振り返り

次年度の活動を企画・立案

2026年3月18日、1年間を振り返り、
次年度の活動を計画しました。これか
ら、学生一人ひとりの強みや個性を
活かした活動を継続していきます。

「できるときに できることを」

それがプラスちゃんクラブのモットー
です。



学科・代表者名

児童教育学科・星野敦子

プロジェクト名

ふるさとの緑と野火止用水を 育むプロジェクト (HUGネット)



プロジェクト概要・テーマ

新座市における自然環境保全と 子どものための自然体験活動

野火止用水を中心とした樹木や用水の保全活動、埼玉県と連携したクリーン活動、ホタル再生活動などを行っています。7年越しでホタルの再生に成功し、現在ではホタルが飛翔する姿が見られるようになりました。

Topics

1

森の工作コーナー



森のプレーパークで人気の「工作コーナー」。自然素材のみを使っています。学生スタッフも素敵なリースを作成しました。

Topics

2

野火止用水灯明まつり



「ゾウキリンくらぶ」の学生が運営する、魚釣りコーナー。後ろには夜に輝く灯明が並んでいます。

Topics

3

HUGネット自然講演会



2026年2月28日に「野火止用水沿いの植物の話」をテーマに自然講演会を開催しました。約60名が参加しました。



星野敦子研究室Facebook :

<https://www.facebook.com/share/1H39K9AaVN/?mibextid=wwXlf>

森の工作コーナー

- ・毎年11月、12月、1月に各1回開催している「森のプレーパーク」において、HUGネットの工作コーナーを開催しています。
- ・自然素材だけを利用したリースづくりは世代を問わず大人気です。
- ・今年は「ぶんぶんゴマ」も人気でした。
- ・約15人のボランティアスタッフが、丁寧に教えてくれます。
- ・学生スタッフも楽しみながらお手伝いをしています。



ホタル活動・リーフレット作成 野火止用水クリーン活動

- ・4月にはホタルの幼虫放流会、5月にはホタル観賞会を開催しました。野火止用水沿いにたくさんの親子連れが集まりました。
- ・これまでのリーフレットが小さくて見にくいという意見をいただき、B4判三つ折りのリーフレットを新たに作成しました。
- ・12月に東京都の活動に合わせて野火止用水クリーン活動を開催しました。学生2名、小中高生4名を含む64名が参加しました。



学科・代表者名
人間福祉学科・矢野景子

プロジェクト名

遊びを通した子ども・地域の
居場所支援－「しあわせ居場所
ネットワーク」の活動と展開－



プロジェクト概要・テーマ

こどもの遊びをまんやかに
"つながりあう"遊びのアウトリーチ

「ハ（happy 幸せ）、ピ（place：居場所）、
ネ（network：つながり）、ス（三単現の S：
みんなで創る）」を理念に学科を超えて学生たちが
交流し、地域の中で遊びと居場所のアウトリーチ活動を
しています。



Topics

1

あそびば



新座栄4丁目商店街フード
パントリー/志木市児童館や
川越市社協の子育てイベン
ト/新座の学童保育で遊びの
アウトリーチを実施。

Topics

2

十文字の森のプレーパーク



十文字の森で11月/12月/1
月と3回開催されるプレーパ
ーク。竹にパン生地をまき
つけてそれぞれが焼く竹パ
ンは大人気！

Topics

3

つくりば



こどもの発想で"つくる楽
しさ"を感じる居場所のアウ
トリーチ。親子で楽しめるワ
ークショップも企画運営して
います。



矢野景子研究室 Email：k-yano@jumonji-u.ac.jp
ハピネスInstagram：@happiness_jumonji

Newsletter

2025年度
活動報告

こどもの笑顔を通して

Pickup! "つながる"よろこび

「ハピネス」の活動はこどもたちの"笑顔"に支えられ、
いつのまにか、大人も交流の中で笑顔が広がっていきます！



こどもたちの豊かな
発想や感性は、
おとなたちに忘れて
いた平和的な日常
を思い起こさせて
くれます。



「ハピネス」×地域

新座栄4丁目たまりば

隔月開催

新座栄4丁目たまりばのフードパントリー開催時に
こどもが参加しやすいフードパントリーになる
ようにこどもたちが好きなパクパクを選んで「お
菓子つかみ」をするミニゲームコーナーを開催。



新座池田保育室

2025.8.7

学童保育の夏のお楽しみ会の企画（遊びのアウト
リーチ）をしました。お菓子アート、スライム、
バルーンアート、どのコーナーも賑わっていまし
た！



新企画:つくりば with Challenge! 絵本・工作作家 きうち かつ氏

2026.2.21

新たな試みとして"親子で作る・遊ぶ"をコン
セプトに"つくりば"を開催しました！21組の
親子、こどもだけの参加もあり、多くの方
で、十文字学園附属幼稚園のホールが賑わい
ました。

**こどもたちが買いたいものをおつかいしました！
いろいろなお弁当づくりに
も挑戦！**



川越市社会福祉協議会

2026.2.16

川越市ファミリー・サポート・センター子育て支
援交流会でパネルシアターやバルーンアートを通
して親子との交流を楽しみました。



学生の学びを地域の方の学びへ拓く：

令和7年度 にいざぶらすカレッジで「ハピネス」の活動を発表しました！2025.11.1

学生パワーで地域に活力を！

これまでの「ハピネス」の活動の参加を通して、参加学生が感じた地域の現
状や課題を発表する機会をいただきました。

地域の中で「学生だからできること」「地域をつなぐ役割」があると地域の
活力や希望につながるプレゼンテーションとなりました。



学科・代表者名
健康栄養学科・木村靖子

プロジェクト名

健康増進に向けたプラスごはん プロジェクトからの地域への情 報発信・交信・共振



プロジェクト概要・テーマ

地域で輝く！ 学生主導のプロジェクト活動報告

学生が主体的に企画・運営し、食を通じて地域社会を支える活動です。2025年度は、地域の高齢者や親子への食育講座、地元の里芋（親芋）や夏みかんの有効活用をとおして、健康にプラス！を届ける活動を展開しました。



Topics

1

新座市 子育て応援講座



食物アレルギーを持つお子さまとその保護者を対象に“ノンアレルギーメニュー”を作って学ぼう！”をテーマに学生が調理実習と講義を行いました。

Topics

2

清瀬市 夏バテ予防講座



旭が丘団地の高齢者のかたが集う「旭が丘みんなのサロン」にて、厳しい暑さを元気に乗り切るための食と運動について学生が講義しました。

Topics

3

和光市 夏みかんで食育講座



広沢小学校にて校庭に実る夏みかんを使って学生が調理実習や栄養講義を6年生に実施。食材の新たな活用法を学ぶ楽しい食育授業でした。



健康栄養学科Instagram : @kenkoeiyo



「食にプラス、笑顔をプラス! 学生たちの挑戦の軌跡」

新座市：里芋親芋コロッケ 地元未利用食材が滑らかな絶品に！

里芋の親芋はえぐみが強く、廃棄される未利用食材ですが、学生たちが調理における下処理の方法を工夫し、コロッケのレシピを発案しました。シニア健康教室参加の高齢者にランチとして提供し、なめらかな食感で食べやすく、とてもおいしいと大好評でした。食事中に、学生が親芋の特徴や廃棄の現状、調理の工夫点などを説明しました。



和光市：夏みかんで食育 校庭の食材で地産地消の驚きを！

校庭に実った夏みかんを利用して、学生が、コンポート、ジャム、ポンデケージョの調理実習とカルシウムなどの栄養に関する講義を行いました。また、地元のパティスリー「パパピニョル」さんとのコラボ授業で作ったブラウニーにジャムをのせて試食し、夏みかんの爽やかな風味が色々な料理やお菓子に活用できることを体験してもらいました。



清瀬市：夏バテ予防講座 クイズとダンスで広がる地域の輪！

第一部は食文化を学ぶ学生が、夏を元気に乗り切る食事の摂り方の講義をクイズやペアトークをとり入れながら楽しく行い、第二部では、運動を学ぶ学生が、暑い日でも無理なく室内で運動できるチェアダンスを指導しました。明るいうリードと軽快な音楽に合わせて、会場が一体となり、笑い声に包まれました。また、フードモデルを使って簡単食事診断も体験して頂きました。



新座市：子育て応援講座 アレルギーでも「おいしい」を共有！

食物アレルギーを持つ親子を対象に、学生が鶏卵・乳・小麦を使わずに作れる「ハヤシライス」と「米粉クッキー」の調理実習と、食物アレルギー向けの市販代替食材のミニ講義を行いました。アレルギーがあっても「みんなと同じ」おいしい料理が食べられる体験は、子どもには大きな喜びであり、子どもたちが目を輝かせて食べる姿に、学生は涙が出そうになるほど感動していました。



学科・代表者名
人間福祉学科・人見優子

プロジェクト名

地域との連携による 多様性交流サロン 「みんなのひろば☆きらり」の実践



プロジェクト概要・テーマ

だれでもが集える居場所づくり

「みんなのひろば☆きらり」は月1回土曜日に開催し、地域の課題やニーズに沿って、意見交換しながら活動しています。地域の方々との交流を促進し、顔の見える関係を少しずつ築き、より健康な生活を目指しています。



Topics

1

もちつき会



近隣の方のご厚意で、臼と杵をお借りして、餅つきを行いました。子どもたちは大喜び、シニアの皆様は昔を懐かしんでいました。

Topics

2

デコデコおやつづくり



お菓子を組み合わせ、動物や家などを作り、思い思いにデコレーションしました。年齢問わず声を掛け合い、良い交流ができました。

Topics

3

地域のマップづくり



地域を歩き、見た物をもとに地図を作りました。地域の危険な場所について話を聞き、地図で確認する事で安全意識が高まりました。



みんなのひろば☆きらりInstagram : @22_kirari
人見優子研究室Email : hitomi@jumonji-u.ac.jp

毎月の活動 地域のやりたいを実現！



文芸文化学科2年

張 雯娜さん



私が参加したきっかけは、スマホ教室の募集メールを見たことです。日本に来た機会に新しいことに挑戦したいと思い参加しました。初めは高齢者の日本語が聞き取りにくく戸惑いましたが、他の学生の助けで理解できるようになりました。また、高齢者がスマホを使う難しさについても気づきを得ました。

お祭りでは射的の案内を担当し忙しかったものの、みんなで焼き肉を食べに行き充実感がありました。中国語教室や大学祭でも、さまざまな人や文化に触れ、温かい交流が印象に残っています。

この活動を通して多くの友人ができ、日本語力も向上しました。海外での生活で孤独を感じる中、この活動は心の支えとなり、人とのつながりの大切さを実感しています。



地域の社会福祉協議会のみなさんのご指導で、参加者につきたてのお餅をお配りすることができました。



2025年度優秀作品は、社会情報デザイン学科渡邊涼加さんの作品です。



ふわり☆きらりを合唱するための楽譜製本づくり、昔あそび、かき氷や「えしりとり」など、新しいことを取り入れながら活動しました。また、子どもとご家族の提案で楽器演奏を披露してくださいました。学生たちも主体的に企画、準備、実施、振り返りと取り組んでいます。



学科・代表者名

幼児教育学科・渡邊孝枝

プロジェクト名

朝霞市公立保育園×十文字学園女子大学
遊んで学ぶ・探求して遊ぶ
「おさんぽ プラス」



プロジェクト概要・テーマ

大学の専門性を保育にプラス！

教員や学生、地域が連携し地域資源を活かした散歩等を実施。子どもの遊びと学びを支え、保育の質向上と学生の実践的学びを目指します。小学館「新 幼児と保育」の2026年度指導計画に本取り組みの振り返りが掲載中！



Topics

1

かっぱの探究



朝霞の昔話をきっかけに広がったかっぱへの興味。年長の1年間、遊びを通じて多様に展開したかっぱ探求をサポートしました。

Topics

2

卒園のサプライズ



1年間の集大成はカパルとの出会い！プラスちゃんとともに、子どもたちとカパルの特別な出会いを盛り上げました。

Topics

3

深まる保幼小連携



朝霞第六小学校の2年生や4年生と、動くおもちゃや草木染めを通じて交流。学びを深めあう機会をサポートしました。



渡邊孝枝ゼミInstagram : @jumonji_watanabe_seminar
渡邊孝枝研究室Email : t_wata@jumonji-u.ac.jp

地域を舞台に紡がれた探究の物語 ～昔話の「かっぱ」から広がった、子どもの主体性と地域のつながり～

朝霞本町保育園の年長児たちが、地域の昔話をきっかけに出会った「かっぱ」。
子どもたちの「かっぱに会いたい！」「かっぱのために何かしたい！」という純粋な探究心は、1年間を通じて多様な遊びへとダイナミックに展開していきました。この1年、「おさんぽ プラス」は、子どもたちの遊びと、それを近くで支える保育者を応援してきました。

自分たち自身が「かっぱ」になりきって遊ぶことから始まり、園庭ではかっぱの大好物であるきゅうりを栽培。さらに保育室では、段ボールや積み木を組み合わせ、想像力あふれる「かっぱの町」を作り上げました。9月の公開保育では、試行錯誤して作ったこの町を訪れた見学者へ、子どもたちが自ら自信たっぷりに紹介する姿が見られ、主体性が発揮される場となりました。

この「かっぱへの興味」は、園内だけに留まらず、地域や他機関を巻き込む大きな原動力となりました。近隣小学校との保幼小連携では、かっぱ色（緑色）に染めたいという年長児の思いを受け止め、4年生と一緒に自然物を探して草木染めを行うなど、途切れない「学びの連続性」へと発展。さらに探究の集大成として、志木市役所への園外保育を企画し、憧れのキャラクター「カパル」と大学の「プラスちゃん」に遭遇するという、子どもたちにとって思い出となる特別な出会いも実現しました。

身近な地域の文化資源を出発点に、子どもたちの「やってみたい！」を応援し続けた1年間。それは、保育の質の向上だけでなく、地域全体で子どもを育て、共に学ぶことの豊かな意味を教えてくれるものでした。



公開保育後の語り合い



カパルとプラスちゃんに出会う！

朝霞市本町保育園と共に歩んだ3年間 「大学との協働」から「保育者が輝く」自走のカタチへ

朝霞本町保育園とともに歩んだ3年間。幼児教育学科のモットーは、「子どもから学ぶ、子どもと共に育つ」こと。本学の保育者養成で大切にしてきた、「遊びの中で子どもたちの主体性の発揮を見つめること、保育者が子どもと一緒に保育を楽しむこと」に一緒に取り組んできました。3年目を迎えた今年、現場の先生方自身が子どもの姿を心から喜び、子どもの主体性の発揮を支える保育が見事に展開されていました。

そこで大学は一步引いて「裏方」へと回りました。地域の保育者が主役となり、大学がそれをそっと支える黒子になる。これこそが、私たちが本当に目指してきた「おさんぽ プラス」の姿です。

次年度へのステップアップ 「まちで遊ぶ×まちで育つ プロジェクト」へ

これまでの成果をベースに、2026度からは新プロジェクト「まちで遊ぶ×まちで育つプロジェクト」へと進みます！「おさんぽ プラス」は継続しながら、遊びと学びを豊かに“つなぐ”「かけはし プラス」などの新機軸を加え、小学校と連携を深めて行きます！途切れない「学びの連続性」を、地域全体で支えることに取り組みます。また、この生きた現場を通じて、将来の保育を担い、地域社会で輝く学生の育成にも一層力を注いでまいります。

大学と保育園、そして小学校や地域が手を取り合い、子どもたちの「やってみたい！」を真ん中に置いた温かいプロジェクトへ。私たちの挑戦はこれからも続きます！

「まちで遊ぶ×まちで育つ プロジェクト」—遊びと学びを育む・つなぐ・支える—

地域の保育・教育の質の向上に向けた保育園・小学校・大学の協働

下記3つの実施を通して、
地域の保育・教育の質の向上に保育園・大学・小学校が協力して取り組む。
朝霞市との協同プロジェクトから始まり、近隣地域も巻き込んでいきたい。

遊びと学びを育む
「おさんぽ プラス」
・地域の保育の質の向上のため、大学と保育園が協働して計画・実施する園外保育
・地域資源を生かしながら、遊びと学びを育む
・朝霞市公立園を始めとして様々な保育園と実施予定。

遊びと学びをつなぐ
「かけはし プラス」
保育の質の向上と保幼小連携
・朝霞市朝霞第五小学校、朝霞第六小学校と連携し、朝霞市公立保育園の子どもたちの遊びと学びを、小学校以降の学びに接続していく取り組み。
・実際の保育・授業の現場で保育者、本学の学生、小学校教諭が協働し、子どもたちの学びをつなぐための方策を検討し、保育や授業の中で実施、振り返り等を行う。
・「おさんぽ プラス」を共同に計画することも検討中。

遊びと学びを支える
語り場「若者会」
・学生・現職保育者・教諭の資質向上のための自由な語り場
・保育経験や年齢の垣根を超え、集った仲間と共に子どもの遊びにおける興味関心を「見取る」ことが中心のテーマである。

2026年度
学生のプロジェクトチームを組織予定。これら3つに参加しながら、保育・教育の質の向上に関わる現場から学ぶ。

プロジェクト学内構成員：幼児教育学科 渡邊孝枝・名達英詔・横井紘子

学科・代表者名
健康栄養学科・徳野裕子

プロジェクト名

地域児童のヘルスリテラシー 向上のための食育支援



プロジェクト概要・テーマ

児童のヘルスリテラシーを育む食育支援

地域小学校において、児童の肥満・痩身傾向や家庭背景による健康格差を踏まえ、教職員・保護者と連携した食育支援を行い、児童の健康維持・改善とヘルスリテラシー向上を図った。



Topics

1

夏休み前授業で食育



夏休み前の小学6年生に、適切な食事量とバランスを考える食育授業を行った。

Topics

2

遊びで食育



放課後の居場所で、低学年児童が遊びながら食と運動を学ぶ活動を展開した。

Topics

3

心と健康調査



不登校やストレスの課題を踏まえ、児童の心身と健康力に関する調査を行った。



徳野裕子研究室Email : toku169@jumonji-u.ac.jp

夏休み前に届けた、子どもたちへの食育授業

各学年ともに「健幸を自分のため、家族のため、社会のため」と考え、学生は学校現場で共に学ぶ活動でした。



休みの日はどのくらい家でごはん(朝・昼・夕)を食べていますか？



授業前に事前アンケートを実施、その結果の一つです。休日の食事リズムの乱れや間食の頻度の高さ、食事のバランスを意識できていない児童の多さも明らかとなり、食生活には個人差や改善の余地が見られた。

① 食育授業と夏休み後アンケート結果

地域の小学校と連携し、小学6年生を対象に、夏休み中の食生活を考える授業を実施しました。

昨年度の給食時間での指導・調査を踏まえ、夏休みは食事のリズムやバランスが乱れやすいことに着目。児童自身が「何を、どのように食べるか」を考える機会としました。

児童は熱心に参加し、学生にとっても、子どもたちへ直接食育を実践する貴重な経験となりました。

自分の食生活を
ふり返ることができた

夏休みにできる
行動を考えることができた

学生の実践的な学びに
つなげることができた

夏休み中、バランスの良い食事を意識できましたか。
(例：ごはん+おかず+野菜+みそしる など)



食育後の内容（児童の様子と成果）

本授業や給食指導を通じ、児童が主体的・具体的に食生活をふり返る姿が多く見られました。「朝食を食べることで1日元気に過ごせた」など、食生活と体調の変化を関連づけて捉える児童もおり、食事の重要性への理解を深め、学びを「自分ごと」にする成果が得られました。一方で、目標の表現が抽象的な児童や、継続的な意欲を示す児童が一部に留まる課題も明確になり、今後は事前の振り返り時間の確保や行動定着のための工夫が必要と考えています。

学生の実施後の感想

栄養教諭の先生をはじめ、多くの先生方には事前打ち合わせから授業の準備にいたるまで、多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。貴重な1コマを頂戴し、児童に向けて直接食育を実践できたことは、私たちにとって大変貴重な経験となりました。今回の出前授業で得た成果と課題をしっかりと生かし、今後の学びや実践に結びつけてまいります。



ココフレンドで放課後食育活動

2か所のココフレンドで、低学年児童を中心に、食べ物カードを使ったクイズを作ったりして食育活動を実施しました。また、ダンス動画を作成して子どもたちと一緒に体を動かし、遊びを通して運動と食事を楽しむ学ぶ機会を設けました。このダンス動画は、その後、小学校の運動会での体操としても使用されました。

活動を通して見えてきたこと

食育は、食事内容を伝えるだけでなく、児童の生活、心身の健康、家庭や地域とのつながりを支える取り組みです。学校現場の実情に合わせ、子どもたちが自分の健康を考える力を育てる取り組みを、学生たちの協力によって形にすることができました。

学科・代表者名

食品開発学科・渡辺章夫

プロジェクト名

新座産クラフトビール

「十文字フルーツビール」の開発と
ホップ粕残渣の有効活用法の検討



プロジェクト概要・テーマ

新座産クラフトビール

『**BELLUME** (ベルーメ) ～香苺～』の開発

食品開発学科 渡辺ゼミと社会情報デザイン学科 川瀬ゼミ・松本ゼミと若手職員は、十文字学園女子大学×新座クラフト コラボ企画第2弾として埼玉県産の苺を使用したオリジナルクラフトビールを企画・製造しました。



Topics

1

キックオフミーティング



メンバーを集めてキックオフミーティングを開催しました。苺のクラフトビールの製造とホップ粕残渣の有効活用法にもチャレンジ！

Topics

2

クラフトビール製造



ビール製造は渡辺ゼミが担当し、商品名は松本ゼミが担当して『BELLUME～香苺～』に決定しました。ラベルは川瀬ゼミが担当しました。

Topics

3

地域イベントへの参加



開発したクラフトビールは桐華祭、東レパンパシテニス大会、新座収穫祭、大相撲新座場所、アイラブ新座フェスなどで販売しました。



食品開発学科note : <https://note.com/shokuhinkaihatu>

食品開発学科Instagram : @shokuhinkaihatu

食品開発学科と社会情報デザイン学科の学生たちによる 新座産クラフトビール 『BELLUME～香苺～』



苺の
Z世代にウケそうなクラフトビールを開発せよ

～プロジェクトの活動概要～

食品開発学科 渡辺ゼミ、社会情報デザイン学科 川瀬ゼミと松本ゼミでは、新座クラフト様にご協力をいただき、十文字学園女子大学×新座クラフト コラボ企画第2弾としてユ-ファ-ム様(本庄市)といちごさんぼ園様(新座市)の苺を使用したオリジナルクラフトビールを企画・製造しました。

近年若者のビール離れなどでビール類市場の縮小が続く中、クラフトビールは堅調に伸びています。そこで、私たちは、女性や若者、ビールが苦手な人でも飲みやすい苺味のオリジナルクラフトビールの開発を目指しました。また製造後に発生したビールホップ残渣にも着目し、抗炎症作用を中心とした機能性の探索研究も行いました。

～クラフトビール造りに挑戦～



麦芽の粉碎



糖化



ホップと苺の投入



充填と打栓



発酵・熟成

できた!

その名も...

BELLUME～香苺～

規格外苺の収穫作業をしました

苺はピュレ状に加工しました



農工商連携フェアに出展しました



アイラブ新座フェスに出店しました



大相撲新座場所に出店しました



大学院生がJAACT2025国際学会(大阪)で発表しました



渡辺ゼミがビール製造を担当!

『ヘレス』をベースに苦みを抑えながら、埼玉県産の苺を約40kgを使用することで苺の甘くて優しい香りを表現したビールです。特にZ世代の若者が好むような味わいを実現しました!

松本ゼミがネーミングを担当!

『BELLUME(ベルーメ)～香苺(こうばい)～』は十文字学園の象徴である『桐華』にちなんで、ベルの形の桐の花とドイツ語で花を意味する『ブルーメ』を掛け合わせ、『香苺(こうばい)』は苺の甘くて優しい香りをイメージした造語です。

川瀬ゼミがラベルデザインを担当!

苺の可愛らしさをイメージしたデザインに仕上げました。



学科・代表者名
文芸文化学科・新嶋良恵

プロジェクト名

地域をいろどる学生のチカラ



プロジェクト概要・テーマ ことばとアートで地域活性化

地域企業と学生が関わり合い、店舗コンセプト、イベントブースデザインの制作と発信を行いました。創造的な活動を通じて、学生のクリエイティブな力を発揮し、地域活性化を目指す都市プロジェクトと協働しました。



Topics

1

店舗コンセプトの具体化

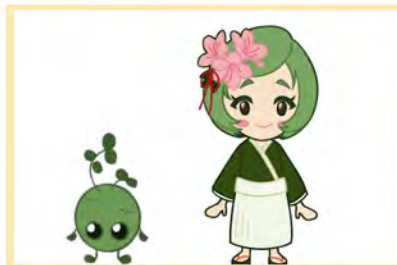


中心市街地活性化計画の中心となる志木街づくり株式会社や起業家と店舗コンセプトを具現化し、学生が考えた店舗名が採用されました。

Topics

2

キャラクター提案



商品・顧客・地域性を検討し、店舗の魅力を伝えるノベルティに使用するキャラクターを提案しました。

Topics

3

イベント用ビジュアル制作



埼玉ローカルフードプロジェクトと協働し、氷川ブリュワリーの催事用テーブルクロスなどの創作を通して食の魅力を伝えました。



新嶋良恵研究室Email : nijijima@jumonji-u.ac.jp

地域をいろいろ学生のチカラ

志木チャレンジショップ2号店のコンセプトメイキングと「彩の彩」ブースデザイン

学生が地域企業や行政と協働し、企画段階から地域課題に関わりました。ことばによるコンセプト提案と地域の魅力を伝えるビジュアル制作を通じて、学びを地域の実践へとつなげました。

事業① 志木市チャレンジショップコンセプトデザイン

ことばで地域活性化



店舗の位置づけを整理しコンセプト提案を行いました。

チャレンジショップ「つどい」オープン告知



日常を彩るお店が集う場として「つどい」という店舗名を付けました。

4~6月



地域のニーズを知る

企業や行政の担当者と、地域ニーズや店舗の役割について協議しました。

7~9月



コンセプトを具現化

店舗空間コンセプトの提案書を作成し、ミーティングを重ねました。

10月



発信への関わり

オープンイベントはじめ企画を担当し、店舗の役割の発信に努めました。

事業② 「彩の彩(SAI NO IRODORI)」企画イベントブースデザイン



埼玉の名産や歴史をモチーフも採用した「彩の彩（いろどり）」ビジュアル



ビジュアル 検討の様子

①

企画立案

埼玉ローカルフードプロジェクトと協働

②

ブースデザイン

協議を重ねブースの構成や見せ方を検討

③

ビジュアル制作

テーブルクロスやのぼりのデザインを提案

④

イベント協力

デザイン力で埼玉の魅力発信のお手伝い

成果

企画段階からの参画

学生が調査・ヒアリング・提案に関わり、学びを地域における実践へとつなげました。

アイデアの具現化

学生が関わったコンセプトメイキングが、店舗名と発信物の形になりました。

表現力の地域還元

学生自身による言語化とビジュアル制作を通じて、地域の魅力発信に貢献しました。

本プロジェクトは、地域の課題や魅力を発見する視点を育むとともに、学生が地域の方々と対話しながら実践的に学ぶ貴重な機会となりました。

学科・代表者名
文芸文化学科 稲田朋晃
国際交流センター

プロジェクト名

外国ルーツの子どもたちの 学びと成長を支える 地域連携プロジェクト



プロジェクト概要・テーマ

交流イベントで、外国人児童たちに笑顔を！

増加する外国ルーツの児童を対象に、交流イベントや学習・生活支援を通じて孤立防止と地域への適応を促進し、大学・小学校・地域が連携した支援ネットワークの構築を目指すプロジェクトです。



Topics

1

夏祭りイベントを企画



今年も、外国ルーツの親子のために、夏休みの宿題サポートと、夏祭り体験の機会を提供するイベントを企画・実施しました。

Topics

2

アジアの魅力を発信！



留学生が、日本人学生と一緒に母国の文化や生活を紹介。子どもを含む市民のみなさんと、国のお茶やお菓子を囲んで交流しました。

Topics

3

外国料理の教室を開催



ミャンマー人留学生が、ひよこ豆を使った麺料理やお茶の葉サラダなどの作り方を伝授。試食会は、笑顔あふれる場となりました。



国際交流センターHP : <https://jumonji-u-kokusai.com/>

国際交流センターInstagram : @jumonji_u_kokusai

外国ルーツの子どもたちの学習を支援する



日本語が母語ではない子どもたちの中には、授業の理解や宿題に困難を感じる子どもいます。学ぶ楽しさと学習習慣を育んでもらいたいと考え、プログラムの中に宿題のサポートや絵本の読み聞かせの時間を設けています。

外国人親子に文化体験の機会の提供



より日本文化に親しんでもらうため、サマーキャンプでは、金魚すくいや輪投げ、かき氷など夏祭りの雰囲気を楽しめるコーナーを用意。保護者向けには、書道と水墨画の体験も行いました。



学生たちの異文化間能力を育成する



社会貢献を通じて本学学生の成長を促すことも、ねらいの一つ。留学生が日本人学生とともに自国の文化を発信する活動を通じて、互恵的な支援関係が育まれ、異文化間能力が向上します。



プロジェクトに参加した学生たちのコメント

どのような言い方をしたら相手にちゃんと伝わるのかを考えさせられました。相手によって伝わる言葉を考えてから話すことを意識した方がよいということを体験から学べました。

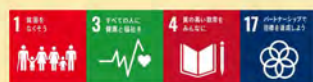
子供たちの宿題を手伝う時間では、しゃがんで子供と同じ目線になったり、こちらから優しく声を掛けたりすると、子供も自然にコミュニケーションを取ってくれることに気づきました。

風鈴づくりの活動では、子供たちが互いに協力し合いながら取り組み、それぞれが自由な発想でオリジナリティーあふれる作品を完成させていて、とても素敵だと思いました。

学科・代表者名
児童教育学科・星野敦子

プロジェクト名

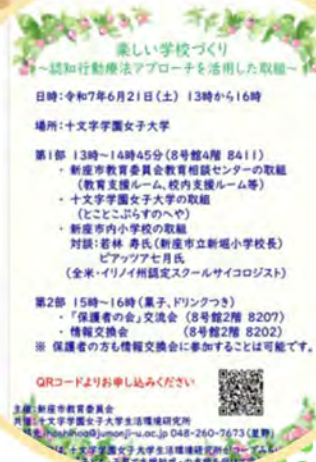
生活環境研究所



プロジェクト概要・テーマ

地域共同社会における多世代による支えあい、
みんなの居場所づくりを目指しています

子育て支援のためのパントリー活動、不登校支援教室「とことこぶらすのへや」、夏休みの居場所づくり「宿題応援隊」、多世代がともに楽しむ「森のプレーパーク」など、年間を通して幅広い活動を展開しています。



Topics

1

ひとり親多子世帯パントリー



食料品・コスメなどをお渡しするだけでなく、カフェや子どもの遊び場なども設置して、楽しく過ごしていただけるようにしています。

Topics

2

「とことこぶらすのへや」
クリスマス会



不登校支援教室「とことこぶらすのへや」のクリスマス。ゲームでゲットしたポイントの使い方を計算しながらプレゼントを選んでいきます。

Topics

3

森のプレーパーク



焼きいもや竹パンを食べたり、カフェコーナーでのんびりしたり。多世代が集う、大人も楽しめる居場所です。



生活環境研究所公式ページ : https://www.jumonji-u.ac.jp/contribution/laboratory/chiiki_kenkyujyo/tiikirenkei_kankyau/



とことこぷらすのへや

- ・毎週金曜日14時から18時に学内で開催している新座市の不登校支援ルームです。現在約25名の小中学生が登録しています。
- ・児童教育学科と心理学科の学生が中心となり、生活支援と学習支援をしています。一人ひとりの特性に応じた環境づくりを行い、学習支援は個別で行っています。
- ・最近は学習意欲が高まり、学習を楽しんでいるようです。学校に通えるようになった児童生徒も増えています。



子育て支援パントリー

- ・大学、新座市の商店会、志木市の商店会で年数回実施しています(2025年度は8回)。
- ・食品・日用品のほか、コスメにも力を入れています。
- ・子どもの遊び場づくりも行っています。
- ・大学で開催している「ひとり親多子世帯パントリー」ではカフェコーナーもあり、相談や情報交換の場にもなっています。
- ・「コスメバンクプロジェクト」様から支援していただいている年2回のコスメセットは大変喜ばれています。



宿題おうえんたい

- ・市内3か所で、地域の方が地域の子どものためにつくる夏休みの居場所です。
- ・学習指導や活動支援は学生ボランティアが中心となって行いますが、町内会の役員、民生委員・児童委員、社会福祉協議会の職員、地元の学校の教員などが地元の学校の児童のみを対象として活動しています。
- ・手作りカレーをみんなで食べるのも楽しいひと時となっています。





社会連携推進課



他大学や地域との連携を積極的に推進し、学生たちが地域に寄り添いながら社会に貢献できる人になれるよう、学外での活動の幅を広げています。

活動の様子

●ふるさと支援隊

少子高齢化や過疎化が進む埼玉県の中・山間地域を元気にする活動です（2025年度は横瀬町、皆野町、ときがわ町で活動）。



●小学生の学びをサポート

「子ども大学しき・にいざ」のグループワークや実技を学生スタッフがサポートします。



社会連携推進課



●産学連携・地域連携

大学での学びを活かし、地域との交流活動や地元のイベントに積極的に参加しています。



●ボランティア活動

地域活動に興味を持つ学生に情報提供を行い、学内外での活動につなげています。



本学との連携に関してのご連絡

社会連携推進課

ext@jumonji-u.ac.jp





発行 十文字学園女子大学
社会連携推進課

TEL:048-477-0958(直通)



2026.6発行